第20回安平町アイスゲット大会開催要領（案）

◎趣　　旨：安平町で生まれた軽スポーツ『アイスゲット』競技の普及を通して、冬期間の運動不足の解消と町民の交流を図ることを目的とする。

◎主　　催：安平町教育委員会

◎主　　管：安平町スポーツ推進委員

◎期　　日：**令和８年３月 15 日（日）**

9 時 15 分～　小学生の部（トーナメント戦）

10 時 30 分　 小学生の部　終了

11 時 00 分　 一般の部（トーナメント戦）

11 時 55 分　 一般の部　終了

◎会　　場：安平町スポーツセンター　アイスアリーナ

◎競技部門：小学生の部、一般の部（中学生以上）

※小学生の部、一般の部ともゲームに参加できる人数は、1 チームにつき 6 名（~~一般の部は女性 2 名以上を含む~~）とします。チーム編成は、交代要員を含め 10 人以内とします。一般の部については、試合中の男女構成比が常に 2:1 もしくは 1:2 以上を達成できれば、試合終了時に１得点を加算。また、試合中の男女構成比が常に 1:1 を達成できれば、試合終了時にさらに１得点を加算。

◎表　　彰：小学生の部、一般の部ともに１位、2 位には賞状を贈呈します。

◎試合方式：組み合わせは、申込み締め切り後に教育委員会で厳正な抽選を行い決定。**（監督会議は行わない。）**結果を大会ルールとともに郵送等で周知します。

◎競技規則：『アイスゲット競技規則』を適用します。

◎服 装 等：必ずヘルメット、肘・膝あて（教育委員会で用意します）、手袋を着用し、靴は裏にツメやスパイクなどの金具がついていないものとします。

◎参 加 料：無　料

◎申込期日：**２月 26 日（木）必着**までに参加申込書により教育委員会社会教育グループへ申し込むものとします。（FAX 0145-22-2026、Mail sk-kyouiku@town.abira.lg.jp）

◎そ の 他

~~①監督会議は実施しません。組合せについては、教育委員会で厳正な抽選を行い、結果を大会ルールとともに郵送します。~~

①昼食を伴わない午前のみの大会とします。それに伴い、トーナメント戦とします。

②会場が急遽休館となった場合など、やむを得ず中止とすることがあります。その際は代表者へ中止の旨を郵送もしくはお電話にて連絡いたします。

③町内で学級閉鎖等があった場合、小学生の部は中止と判断します。

詳細の問い合わせは教育委員会社会教育グループまで。（℡ 0145-29-7036）

アイスゲット競技規則（ルール）

１．ね ら い

アイスゲットは、運動不足になりがちな北国の冬の軽スポーツとして、また、せいこドームを多くの町民に利用してもらうことをねらいとして気軽に楽しめるように長靴アイスホッケーを参考にルールを改めたゲームです。

２．始める前に

準備運動　…　室温が低いので十分な準備運動を行う。

用　　具　…　ユニホックのスティックを使用し、ボールは安平町スポーツ推進委員が認めたスポンジ製のボールを使用。ゴールはアイスホッケーのゴールを用いる。ゴールキーパーは必ず専用ミットを両手にはめなければならない。

服　　装　…　必ずヘルメット、肘・膝あて、手袋を着用し、靴は裏にツメやスパイクなどの金具がついていないものとする。

コ ー ト　…　アイスアリーナのブルーライン上にフェンスを置き、ブルーラインからゴール側を使用する。

人　　数　…　１チームの人数はゴールキーパーを含め男女混成６名とする。~~（一般の部はその中に必ず女性を２名以上入れる。）~~

３．ゲ ー ム

試合時間　…　本大会では、~~子どもの部は第１・２ピリオド各５分（ロス込み）、一般の部も~~第１・２ピリオド各５分（ロス込み）としピリオドの間に休憩１分を入れる。（ただし、参加チーム数により変更する場合あり。）

勝　　敗　…　相手ゴールに入ったボールを１得点とし、第１・２ピリオド合計で得点の多いチームの勝ちとする。

交　　代　…　自由に交代する事ができるが、必ず審判に報告しなければならない。

開　　始　…　コートの中央でフェイスオフ。その際ボールが氷につく前に相手コートに入ってはならない。

停　　止　…　① 審判がホイッスルを鳴らした時

② ボールがサイドフェンスを通過した時

※出した相手側が出たところからコーナーストロークによりボールをコートに入れる。（この際、味方・相手選手ともにボールから3m以上離れること。）

反　　則

①ペナルティーショットファール

・インターフェアランス ～ ボールを持っている人及び持たない人のプレーを妨げること。又は危険なプレーをした場合。

・スラッシング ～ 相手選手をスティックで叩いた場合。

・チャージング ～ 故意に相手選手を押した場合。

・トリッピング ～ 相手選手をスティックで引っかけて転ばせた場合。

・ハイスティックチャージ ～ ハイスティックによりケガを伴う反則をした場合。

②間接ファール

・フォーリング・オン・ザ・ボール ～ ボールを足で踏んでつぶし押えた場合。

・ダウン・ザ・プレイ ～ キーパー以外の選手が寝たままプレーした場合。
（片膝が立っていれば可）

・ハイスティック ～ 腰の位置より上にスティックを振り上げた場合。

・キック ～ 足で蹴った場合。（足元に止める程度は認める。）

・ハンド ～ 空中に浮いたボールを手でつかんだり、パスした場合。
（真下に落とす程度は認める。）

※間接フリーショットやコーナーストロークのとき、味方・相手選手ともにボールから 3m以上離れなくてはならない。

※ゴールから 3mの範囲内で間接ファールがあった場合は、ゴールから 3mはなれた地点から間接フリーショットとする。

ペナルティーショットについて

・ゴール前 3m地点から審判のホイッスルの合図でショットを打つ。（得点した場合もゴールから外れた場合も中央よりフェイスオフとする。）

ゴール キーパーについて

・キーパーによってボールが隠れた場合（審判からボールが見えなくなった場合も含む）及び、審判が危険と判断した場合は試合を一時停止する。（相手チームのコーナーストロークから再開する。）

・手足は自由に使えるが、ゴールから 3mの範囲内とする。

・ペナルティーショット時のポジションはゴールラインから 1mの範囲内とする。

４．そ　の　他

・審判に対する抗議は一切受け付けないものとする。
（抗議の内容によっては退場を宣告する場合もある）